

年末年始の大掃除から始める 家族で取り組む ごみの減量化



工事期間中のごみの受け入れ
ごみの焼却施設は、1日当たり120tを処理できる炉

家庭から出たごみの量は、平成28年度実績で燃えるごみが1万9755t、燃えないごみが1171tです。これを1日当たり計算すると、燃えるごみはおよそ100tになります。
ここ数年の排出量は、家庭での減量化やリサイクルへの取り組みまたは人口減が影響し、わずかながら減少傾向にあります。収集・運搬に掛かる年間約2億円の費用負担の縮減や、焼却施設の耐用を考えるとこれまで以上の取り組みが必要となります。

本市のごみの現状

生活の中で必ず発生するごみ。家庭から出たごみのうち「胆江地区衛生センター」に集め処理されるゴミの中には、リサイクルできる資源も含まれます。また同センターで予定する平成30年2月から32年9月にかけて行う焼却施設の設備機器更新工事の期間は、焼却制限をするため家庭や事業所でのごみの排出の抑制が必要となります。間もなく年末年始の大掃除の季節がやってきます。ごみ減量の取り組みについて、考えてみませんか。

■問い合わせ 本庁生活環境課生活衛生係（内線215）

が2基備わっています。工事期間中は1炉だけ稼働させてごみの焼却を行います。どうしても2基を完全に停止しなくてはならない休炉期間が3回予定されています。この休炉期間中は、皆さんの生活に支障が出ないように、ごみに含まれる資源物の一時仮置きや他地域のごみ焼却施設へ焼却を依頼し、対応することになっています。

ごみの減量化へ

休炉期間中も普段と変わらずにごみを受け入れる予定とされていますが、衛生センターで保管できる量には限りがあります。また、市外へのごみ処理の依頼についても無料ではなく、処理量に応じて費用が発生します。ごみの量が少なければ少ないほど費用が安く済むこととなります。

胆江地区衛生センター焼却施設の工事によりごみの排出抑制にご協力ください



衛生センターの休炉予定期間
30年2月（10日間）
31年2月（30日間）
32年9月（10日間）

■問い合わせ 奥州金ヶ崎行政事務組合施設管理課（☎5821）



12月は鍋用の需要が増え、1年で一番忙しいという

市の名産品で全国的なブランドである前沢牛を、地元前沢から全国販売する「有有限会社ちだきゅう」。千田健市さんはその代表取締役である。前沢牛の販売を始めたのは、健市さんが25歳のころで、初めて食べたとき「臭みがなく甘みがある肉。これは売れる」と確信したという。当時は豚肉や鶏肉が商品の中心だったが、家族も健市さんの挑戦を後押し。以前からのお客さんも贈答用などで購入してくれたと感謝する。

通信販売の開始は、東京などからの前沢牛を求める声に「口コミを大事に、昔からのお客さんと新しく来るお客さんを大切にしていきたい」と今後の展望を語る健市さんは商品への信頼に満ちていた。

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 【特集】年末年始の大掃除から始める 家族で取り組むごみの減量化
- 6 財政状況の公表
- 7 旧土地開発公社土地の処分活用状況
市奨学金申請の受け付けを開始
- 8 年末年始情報
- 9 おやつフェスティバル
百歳おめでとう
- 10 市勢功労表彰
- 11 地域振興功労感謝状贈呈
新年交賀会
- 12 Road to きらめきマラソン
全国の舞台で活躍
東稲山麓地域の世界農業遺産認定に向けて
- 13 I L C希望のひかり
- 14 まちの話題
- 15 市政ズームイン
- 16 夢トーク
青春讃歌
- 17 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 18 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 19 トマス・アンナの あんなこと
こんなこと
姉妹都市 掛川だより
- 20 情報あらかると
- 24 奥州遺産

自信ある商品だから 売ることが出来る

千田健市さん（65歳）
前沢区三日町



ちだ・けんいち◎昭和27年、奥州市前沢区生まれ。祖父の代から前沢区で続く商店を経営。スポーツが趣味で、ソフトテニスなど球技を得意とするが現在は休止中。妻と息子との3人暮らし

〈今月の表紙〉



職業体験やスポーツ体験などを通じ、まちで働く人との交流から将来を描くイベント「ONE LOVE TOWN キッズワーカーズ（胆江青年懇話会主催）」が11月12日、江刺総合コミュニティセンターで開かれました。参加した小学生は、40あるブースの中から自分好みのものを予約し、得られる通貨と時間を有効に使いながら1日を過ごします。

女子に人気のバランスボール体験では、慣れないボールの扱いも、持ち前の柔軟性と吸収力でみるみる上達。仕事の資本となる体づくりにしても学びました。